

北だより

南富良野高の挑戦

「えっ!」。1月28日朝、本紙に掲載された2025年度公立高入試の当初出願状況を見て、思わず声を上げた。よく取材で訪ねる南富良野町立南富良野高の出願者数が26人。昨春の卒業生3人と単純に比べ、8倍以上になったからだ。

人口2千人余りの町にある各学年1学級の小規模校。存続をかけた生徒集めのため道内各地の中学校を回った一人、永谷哲治校長は「地道な努力が実を結んだ」と喜んでいた。

同校の特色は、野外活動について学ぶ学校設定科目「アウトドア」。スノーシューを履いて雪山を歩く授業「スノーシューハイク」には2年連続で同行取材し、草木や動物の足跡を観察しながら大自然を満喫した。座学では得られない新鮮な驚きの数々。自然との向き合い方を、実際に体験しながら学ぶことができる。私も高校生に戻れるなら、同校に入学したいと取材のたびに思った。

「活気があっていいね」。最近、町民からも南富良野高の話題を聞くことが増えた。増加する生徒数が、地域にどのような刺激をもたらすのか。楽しみでならない。

(富良野・千葉佳奈)